

加齢黄斑変性の 「萎縮」を考える

日時: 2016年11月4日(金) 7:30~8:30

会場: 第5会場(国立京都国際会館 2F Room B-1)

座長



白神 史雄 先生
岡山大学 眼科教授



高橋 寛二 先生
関西医科大学 眼科教授

加齢黄斑変性(AMD)において「萎縮」を考える場合、二種類の「萎縮」が最近話題になっています。一つはAMDの進行期病変である萎縮型AMDにおける地図状萎縮であり、その診断については、昨年わが国における診断基準が公表されました。特に萎縮型AMDの頻度が高い欧米人では、萎縮の危険因子として、reticular pseudodrusenなどが大きく取り上げられており、萎縮の発症/進行の予防や治療についての研究が精力的に行われています。

一方、滲出型AMDの治療後に生ずる「萎縮」である網膜色素上皮萎縮は、古くから「萎縮性瘢痕」として知られてきたものですが、最近特に抗血管内皮増殖因子療法の長期経過後に視力低下を来す一つの因子として注目されており、日本人においても一定の確率で治療後に萎縮を生ずるため注目が集まっています。本セミナーでは、大島裕司先生から萎縮型AMDの「萎縮」について、また白神千恵子先生から滲出型AMDから生じる「萎縮」について、最新の知見をアップデートしていただきながら、御来聴の先生方と一緒にAMDの「萎縮」について考えてみたいと思います。本セミナーでAMD診療における「萎縮」の重要性に気づいていただければ幸いです。

講演
1

加齢黄斑変性—萎縮型AMDの診断基準—



大島 裕司 先生(九州大学病院眼科 特任准教授)

1993年 長崎大学医学部卒業	2008年 九州大学病院眼科助教
1995年 九州大学大学院医学系研究科博士課程	2010年 九州大学医学部講師併任
1999年 日本学術振興会特別研究員	2014年 九州大学病院講師
2000年 ジョンスホプキンス大学、 ウィルマー眼研究所研究員	2016年 福岡大学筑紫病院 眼科 准教授 九州大学病院 眼科 特任准教授 現在に至る
2003年 別府医療センター眼科医長	
2005年 北九州市立医療センター眼科主任部長	

講演
2

wet AMDの長期管理—黄斑萎縮を考える—



白神 千恵子 先生(香川大学医学部眼科学講座 講師)

1993年 関西医科大学医学部卒業	2005年 香川大学医学部眼科 助教
1993年 関西医科大学医学部眼科	2010年 香川大学医学部眼科 学内講師
1994年 岡山大学医学部眼科	2015年 香川大学医学部眼科 講師 現在に至る
1998年 三原赤十字病院眼科 医長	
1999年 岡山大学大学院 修了	
2003年 香川大学医学部眼科	